



ХӨДӨЛМӨР,
НИЙГМИЙН ХАМГААЛЛЫН ЯАМ



JAPAN INTERNATIONAL
COOPERATION AGENCY

ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト (DPUB)

情報アクセシビリティセミナー開催

2018.06.19



参加者がSTBの説明を興味深く聞いていた

6月14日、情報アクセシビリティセミナーを開催しました。今回のテーマは「手話や字幕付きのテレビ番組を増やすために」。日本から株式会社ASTEMがセットトップボックス (STB) の機能や効果についてデモを交えて紹介しました。STBは、テレビに接続して手話や字幕、音声解説を発信する機器。手話と字幕を作成、番組を見ながら挿入し、インターネットで配信するという仕組みです。STBを使用すれば、手話通訳者や字幕入力者はテレビ局に行く必要がなく、別の場所で作業をして発信することが可能になります。また、受信者は手話のサイズや位置、字幕の色やサイズをリモコン操作で変更ができるのです。阪神淡路大震災（1995年）で、聴覚に障害のある人達に情報が伝わらなかったという経験から支援が開始し、STBの開発につながりました。今、こうした日本の経験が世界中に広がっています。ASTEM社の講演の後、「モンゴルで導入が可能か？どのような体制づくりをしたら良いか？」、80名を超える参加者は、終始熱心に議論していました。

物理アクセシビリティ協議会を開催

2018.06.13

6/13(水)に労働社会保障省にてアクセシビリティ協議会を開催したところ、NGO・障害当事者、行政機関、DPUBメンバー等、約70名が参加しました。労働社会保障省のトンガラグタミル局長による進行の下、はじめに千葉チーフアドバイザーがモンゴルのアクセシビリティに関わるシステムとその課題に関する講話を行いました。その後、3つの障害関係のNGOが労働社会保障省管轄の部門・事務所に対して5～6月に実施したアクセシビリティ調査の報告をもとに、今後のアクセシビリティ改善に向けての議論を行いました。行政、NGO・障害当事者団体、建設関係の部門や事業所が協働して、誰もが住みやすい環境を整えていくことが求められています。



NGOによる調査報告



JICADPUBのFACEBOOKページに「いいね」をお願いします。

お陰様で、今ではページのいいねが2475件に達し、より多くの方に情報を発信できるようになりました。これからも、楽しんでいただけるような投稿を目指して頑張ります。引き続き、宜しくお願い致します。

NTVのニュース番組で紹介 2018.06.15

労働社会保障省とJICA/DPUBで実施した物理アクセシビリティ協議会の様子がNTVのニュース番組で紹介されました。今回は、障害者団体が自ら社会保険事務所や家族・青年発達庁などのアクセス調査を行い、その調査結果と対策を報告しました。各事務所から参加した行政官たちは熱心に報告を聞き、またJICA/DPUBからモンゴルの物理アクセシビリティの改善に向けた取組を報告させて頂きました。報告を受け、モンゴルの行政機関のアクセシビリティが向上し、すべての人に使いやすい役所となることを願っています。

<https://www.facebook.com/ntvmn/videos/1900193336678499/>

(37分から2分半)



報告者のウンドラフ
バヤルさん
(ユニバーサルプロ
グレス自立生活セン
ター)

通信情報調整委員会委員長と面談 2018.06.19

6月15日、プロジェクトは、労働社会保障省や日本から情報アクセシビリティセミナーのために来訪した株式会社ASTEMの方々とともに通信情報調整委員会を訪問しました。面会したのはアディヤスレン委員長。プロジェクトから前日に開催した情報アクセシビリティセミナーについて報告し、ASTEM社から手話や字幕の発信、受診ができる「セットトップボックス (STB)」の機能や効果を紹介しました。「モンゴルのテレビはIPテレビが主流。STBの導入に必要な条件を充たしており、技術的な問題はない」とASTEM社小林さんが説明。熱心に耳を傾けていた委員長は、「通信情報調整委員会は、障害者国家委員会に参加しており、今後も情報アクセシビリティ改善に努めていく」と発言。プロジェクト一行の訪問を歓迎して下さいました。



面談後の記念写真

国連へふたたび！

NGOの仕事を一年で終え、次に何をすべきか考えました。充実したカンボジアでの仕事でしたが、政府に批判的になるよりも、自分はやっぱり制度や政策を作るほうが面白いと思うようになりました。そしてたった一年のNGOで十分な経験とは言えないものの、やはり当初の目標である国連で仕事をしたいとなりました。国連で働くなら障害分野しかなく、それが本当に自分のしたいことか悩みましたが、インターン時代の上司に相談してみました。すると、ちょっと考えてみるとのこと。4~5日後、上司から連絡がり、「当てはあるが、どうなるか分からない。今度、国際会議がバンコクであるのでそれに来て欲しい」と言われました。そこで行ってみると、その後ずっとお世話になる河村宏氏を紹介されました。情報アクセシビリティの専門家で、障害者に使いやすいマルチメディア図書 (DAISY) の普及に取り組んでいる人でした。河村氏と面談し、私の経歴や夢、目標を伝え、国連で働きたいことも伝えました。すると結果的に、河村氏の団体に所属しながら国連に派遣してくれることになったのです。これは本当に幸運でした。当時、途上国でもインターネットが普及し始めていましたが、まだまだ障害者の利用は少なく、河村氏は情報通信技術を使ってそんな状況を変えようと思っていました。ただ障害業界には技術者が少なく、その点、私はもともと理系なので、昔の経歴が役立ちました。こうして、障害分野で6ヶ月のインターンしか経験していない私が、国連アジア太平洋经济社会委員会・社会開発部で働くことができるようになりました。国連を目指して会社を辞めてから4年半、2001年のことでした。(つづく・・・)



チーフアドバイザー千葉寿夫

DPUB連絡先

Office: Government Building – 2, United Nation’s Street – 5, Ministry of Labor and Social Protection
Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

Facebook: <https://www.facebook.com/jicadpub>

Website: <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>